

里山を舞う ギフチョウを 訪ねて



市内では萩原・下呂・金山で見られるギフチョウ

金山町で発見、 ギフチョウと命名

「春の女神」とも呼ばれるギフチョウを見たことがありますか。今月は約120年前に金山町祖師野で発見されたギフチョウをご紹介します。

ギフチョウはアゲハチョウの仲間です。後ろの羽の先に赤と青、オレンジ色の鮮やかな紋様があるのが特徴。大きさは羽を広げると約5センチとアゲハチョウより一回り小さい。早春に飛ぶチョウとして知られ「春の女神」「春の舞姫」と呼ばれます。秋田県から山口県までの本州で見られる日本だけに住むチョウです。良く似たチョウに北海道から長野県に生息するヒメギフチョウがいます。

桜前線に乗って発生すると言われるとおり、サクラが満開となった4月10日、金山町広瀬にある池の島公園で開かれたギフチョウ観察会では、地面すれすれに飛ぶギフチョウの姿が見られました。ギフチョウは1883(明治16)年に岐阜市の名和昆虫博物館の初代館長、故・名和靖さんによって金山町祖師野地区(当時は郡上郡祖師野村)で発見され、ギフチョウと名付けられました。名前に県名がついたチョウは他に「ナガサキアゲハ」がいます。

発生場所によって色や模様が異なるギフチョウ。



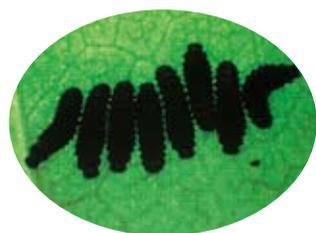
発生場所によって色や模様が異なるギフチョウ。



カンアオイの若葉に産みつけられた卵。
敵に見つかりにくいよう葉の裏側に。

ギフチョウの一生

サクラが咲き始める4月のあたりに朝、ギフチョウは羽化します。成虫は2週間ほどしか生きられません。羽化するたびに交尾を始め、カンアオイの葉に卵を産みつけます。約2週間で幼虫にふ化。カンアオイを食べる成長します。約1カ月後（6月頃）、幼虫は落ち葉や石の下など安全な場所を見つけてサナギに変身します。ギフチョウは、夏秋冬と一年の大半をさなぎで過ごします。



幼虫（上）とサナギ（右）



カンアオイ

カンアオイの仲間は本州に19種類が分布しており、市内ではヒメカンアオイという種類が見られます。一年中、緑の葉を茂らせていますが、早春に新しい芽が芽吹きます。市内では、常緑広葉樹林（雑木林）内に分布しますが、スギやヒノキの植林が進み、現在は陽の当たらない林縁のみで見られます。カンアオイの成長は遅く、また分布を広げるのにも、とても時間がかかります。



ギフチョウはカタクリやスミシなど紫色系の花が大好き



花がつくまでに数年から10年かかるカンアオイ



ギフチョウの研究や保護に情熱を燃やす

河尻 正敏さん
(59歳・金山町)
日本鱗翅学会会員
岐阜県昆虫同好会会員

ギフチョウは金山町で発見されましたが、知られていないのが残念。もっとPRしたいと思っています。ギフチョウが最近減っているという話があります。それは里山がなくなってきたのが原因です。炭焼きや山の手入れをしなくなったことで里山が荒れ、植林で陽の当たる林が減りカンアオイが育たなくなり、ギフチョウも見られなくなってきたのです。里山を守り育てることが大事です。

ギフチョウは地域によって色や模様が違います。他の産地からギフチョウを捕ってきて放すことは、その産地の模様が違ってしまいます。産地以外のギフチョウを放さないことが大切です。また洋花の増加や温暖化で元々この地域に生息しないチョウが増えており、地域の生態系が崩れてきています。昔からその地域にある花を植えてもらいたいと思います。

ギフチョウは地域によって色や模様が違います。他の産地からギフチョウを捕ってきて放すことは、その産地の模様が違ってしまいます。産地以外のギフ



池の島公園でのギフチョウ観察会（4/10）